

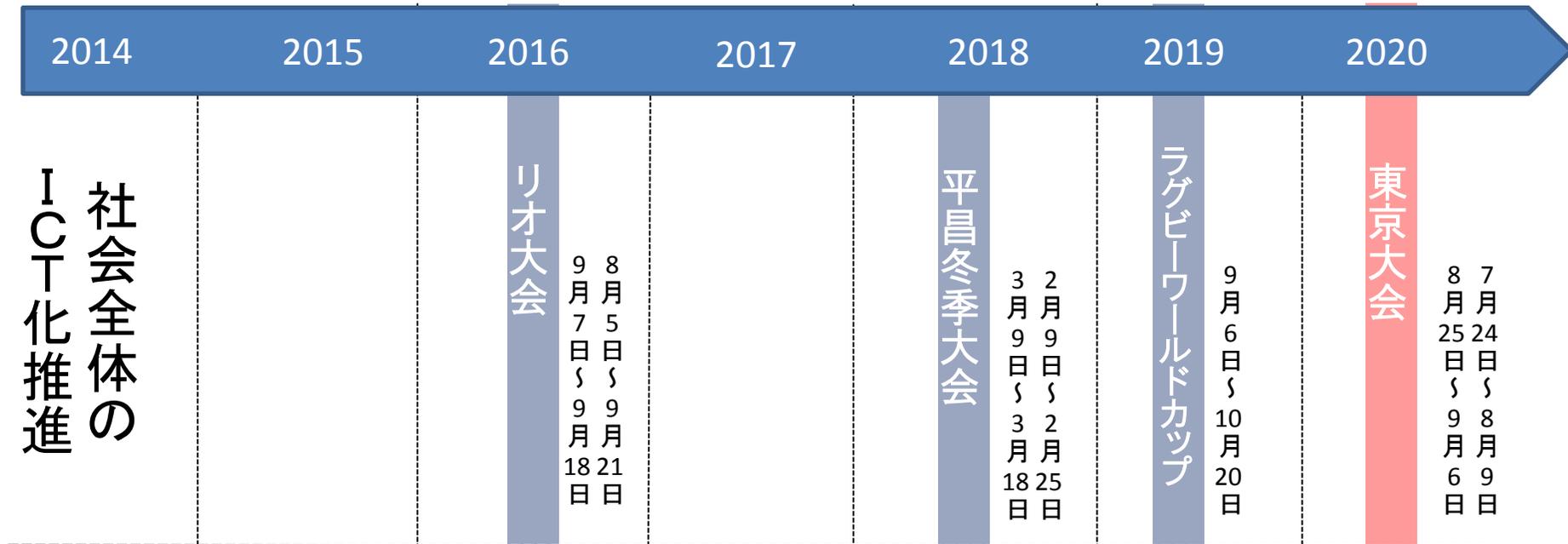
2020年に向けた社会全体のICT化推進について

平成27年7月22日
総務省

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会等に関する閣僚会議（第3回）（平成27年1月27日）

⑤大会と連携したICT環境の整備（総務省等）

大会以降の我が国の持続的成長も見据えつつ、新たなイノベーションを世界に発信するため、「無料公衆無線LAN 環境の整備促進」、「ICT を活用した多言語対応」、「4 K・8 Kやデジタルサイネージの推進」、「放送コンテンツの海外展開」等社会全体のICT 化の推進方策について、産学官共同で検討する「2020 年に向けた社会全体のICT 化推進に関する懇談会」を平成26年11月に立ち上げ、本年夏頃を目途に中間とりまとめ予定。



※上記閣僚会議での進捗状況確認を受け、「国の対応が期待される事項」に係る工程表を策定することが必要。その工程表策定に向け、下記大会開催のスケジュールも手がかかりとしていくことが重要。

成長戦略について

「日再興戦略」改定2015 「改革2020」プロジェクト（平成27年6月30日 閣議決定）

(Ⅱ)訪日観光客の拡大に向けた環境整備等 5. 観光立国のショーケース化

①観光地域

(1) 2020年のショーケース化の内容

- 日本の観光のトップランナーとしてふさわしい地域の中から、観光地づくりとマーケティングを行う官民一体の観光地経営体（日本版DMO）として選定し、各省庁の施策を集中投入することにより、観光資源を磨き上げ、**多言語音声翻訳対応をはじめとしたストレスフリーの環境を整備**し、海外に情報発信していき、2020年までに、より多くの訪日外国人旅行者に選ばれる、観光立国を体現する観光地域を作り上げる。

(2) 取組の具体的内容

- ストレスフリーの環境整備については、訪日外国人旅行者が快適・円滑に滞在・周遊を楽しむための環境整備を行う。具体的には、2020年以前に日本全国でのサービスの提供が可能な、**(i) 無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備**、**(ii) スマホ・タブレット端末等による多言語音声翻訳対応**、等について、日本版DMOとして選定された地域の観光・防災拠点において、訪日外国人旅行者が不自由なく確実に利用できるようにする。(略)

経済財政運営と改革の基本方針2015（平成27年6月30日 閣議決定）

第2章 経済の好循環の拡大と中長期の発展に向けた重点課題

1. 我が国の潜在力の強化と未来社会を見据えた改革

[3]イノベーション・ナショナルシステムの実現、IT・ロボットによる産業構造

(IT・ロボットによる産業構造の改革)

(略)加えて、世界一安全なサイバー空間の実現や、公衆無線LAN、**自動翻訳等による属性に応じた情報提供**、4K・8K等の高度な映像サービスの実現等による**社会全体のIT化**とともに、未来の産業や社会変革を見据えた研究開発を推進する。人々の暮らし、社会を劇的に変えるロボット革命を推進する。ロボット革命イニシアティブ協議会での活動も通じ、業界横断、省庁横断で社会実装を加速化する。

○世界の「言葉の壁」をなくしグローバルで自由な交流を実現する「グローバルコミュニケーション計画」を推進するため、情報通信研究機構が開発した多言語音声翻訳技術の精度を高めるとともに、民間が提供する様々なアプリケーションに適用する社会実証等を実施する。これにより、ICTを活用したイノベーションを加速し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの際には、本技術を活用して「言葉の壁」がない社会をショーケースとして世界に発信する。

・多言語音声翻訳の対応領域、対応言語を拡大するための研究開発

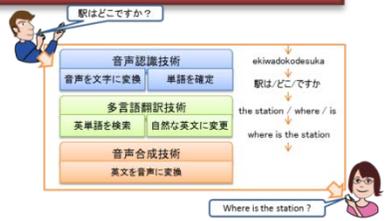
多言語音声翻訳技術の翻訳精度を向上し、対応言語数を拡大する。また、雑音対策や長文翻訳など、翻訳精度の向上に向けた研究開発を実施する。

・病院、商業施設、観光地等における社会実証

産学官の連携により、多様なアプリケーションの社会実証を集中的に実施する。

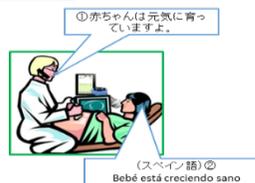
多言語音声翻訳システムの仕組み

スマートフォンなどに話しかけると即座に他の言語に翻訳して、音声出力する



病院

多言語対応ヘッドセット等のウェアラブル機器を用い、症状や病名の翻訳など 医師と患者のコミュニケーションを支援



ショッピング

多言語対応型レジ端末により、商品の購入や問合せなど、外国人客の要望にきめ細やかに対応



【推進体制】

総務省(民間企業等研究機関への委託による研究開発・社会実証プロジェクト)
→ 7月に委託者を決定し、8月頃から研究開発、秋頃から利活用実証を実施予定。

グローバルコミュニケーション開発推進協議会(産学官122者で構成)等
→ 研究開発ロードマップの検討、社会実装に向けた課題抽出等を実施。今後、共通プラットフォームの構築に向けて検討予定。

【利用場所】

全国

- 成田空港での実サービス(NariTra)の提供や京浜急行電鉄、東京都における試験利用等を実施。
- 今後、左記の利活用実証のほか、東京都と連携して各種スポーツ大会等での試験利用等を予定。



「グローバルコミュニケーション計画」の推進

2014 2015 2016 2017

多言語音声翻訳技術の研究開発及び技術実証
高精度に翻訳可能な言語を10言語に拡大

各地域、民間企業(鉄道、空港等)による
多言語音声翻訳アプリ・VoiceTra等の活用

2018 2019 2020

基本技術の確立

言葉の壁のない社会の実現へ
実装・実用化

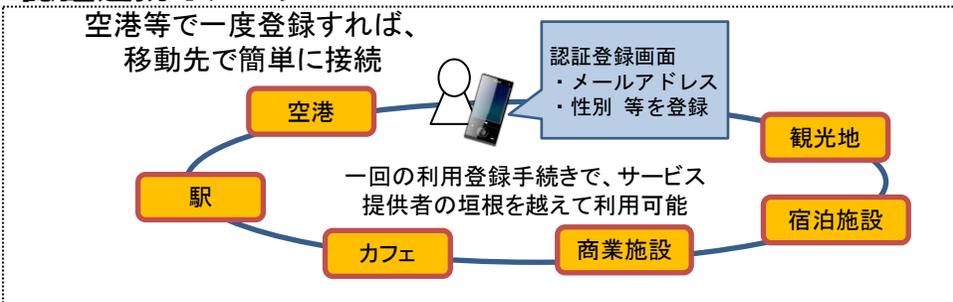
大規模実証・改善
翻訳可能な10言語のさらなる精度向上

東京2020大会

無料公衆無線LAN環境の整備の促進

- 2020年までに外国人の導線における主要な観光・防災拠点にWi-Fiスポットを整備するため、自治体への支援を実施。
- 訪日外国人旅行者が快適に利用できる無料公衆無線LAN環境の整備を促進するため、総務省、観光庁が事務局となり、駅、空港等のエリアオーナー、自治体、通信事業者等から構成される協議会（無料公衆無線LAN整備促進協議会）を昨年8月に設立。本協議会を通して無料公衆無線LANの整備促進、共通シンボルマークの導入、利用可能場所等の周知、利用開始手続きの簡素化・一元化等を推進。

【認証連携イメージ】

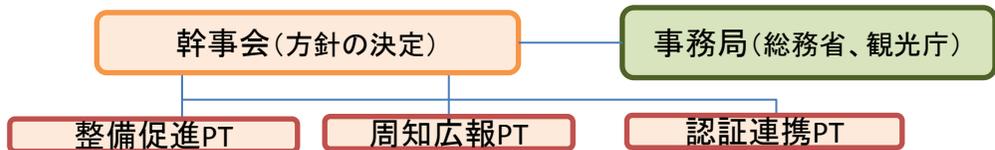


【整備イメージ】



【推進体制】

無料公衆無線LAN整備促進協議会



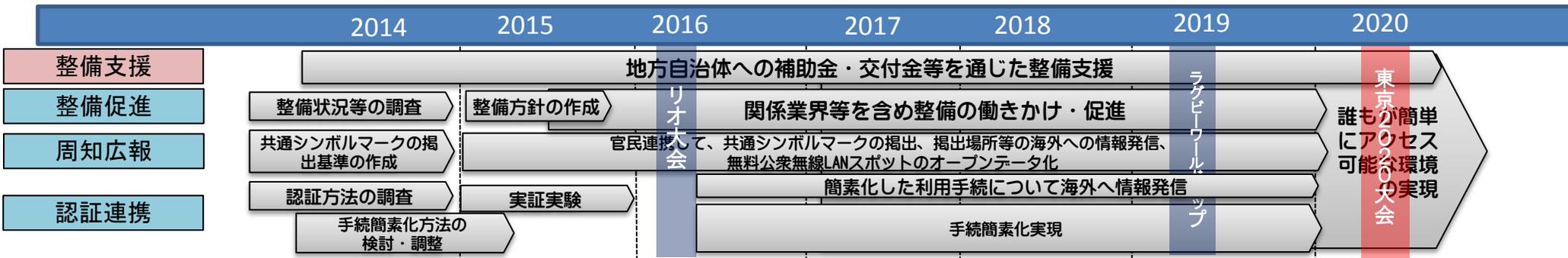
【整備場所】

全国の交通・商業施設、観光、防災拠点等

2020年に向けて、重点整備箇所となる(公共的な)観光拠点及び防災拠点について、整備完了を目指す。

※重点整備箇所となる(公共的な)観光拠点及び防災拠点全てに整備を実施した場合、整備費用は約311億円と推計

【スケジュール案】



デジタルサイネージは公共空間等に数多く設置され、非常に有用な総合情報通信端末として進化。
 現在デジタルサイネージWGや都市サービス高度化WGにおいて、2020年に向けた利活用の在り方を検討中。

【災害情報やオリンピック等情報などの一斉配信】

災害等の緊急時における災害情報、避難所情報等や、オリンピック・パラリンピックの情報等をデジタルサイネージから一斉配信

【個人属性に応じた情報提供】

- ・ 訪日外国人に対して、観光情報や競技情報、災害情報等を多言語で情報提供。サイネージにかざしスマホタブレットに自国語で表示
- ・ スマートフォン等の他のデバイスとの連携等により、個人の属性に応じた双方向による情報提供、Wi-Fiスポットとしての活用、美術館や博物館、レストラン等のクーポンの入手等

【4K・8K高度な映像配信・パブリックビューイング】

- ・ 開催地東京のみならず、地方、海外においても、オリンピック・パラリンピックの感動（高精細映像・音響等も含めた競技会場の情報を伝送し、中継会場に応じた競技の場の再現による超高臨場感観戦体験）を共有できる場を提供(※)

※メディア権保有者との協議が必要

【実現イメージ】

緊急時の災害情報の一斉配信

クラウド連携 相互接続確保

スマートフォン等との連携で属性(言語等)に応じた情報入手

公園、映画館、公民館、美術館等でのパブリックビューイング

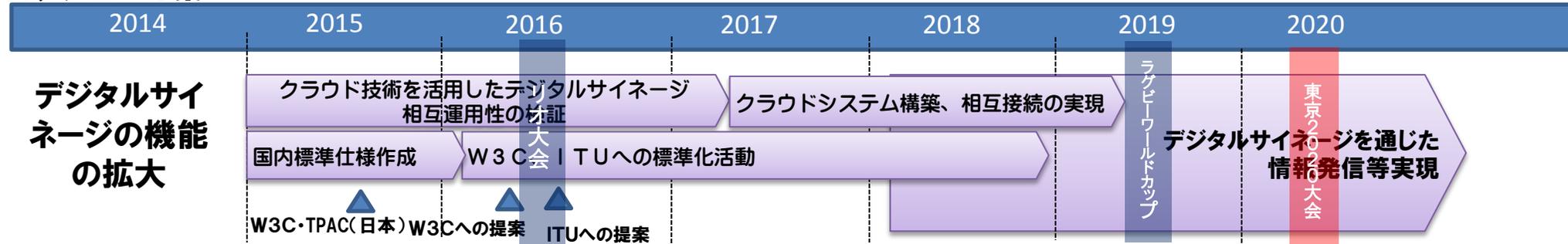
【推進体制】

- 共通仕様の検討：デジタルサイネージWG、デジタルサイネージコンソーシアム等
- 標準化活動：デジタルサイネージコンソーシアム 等

【先行導入地域】

- 2015年度中に先行導入地域を決定予定。
- 災害情報等一斉配信・個人属性に応じた情報提供
 候補：港区、竹芝地区、成田・幕張地区、六本木・虎ノ門地区、渋谷地区
 - 4K・8K高度な映像配信・パブリックビューイング

【スケジュール案】



【目標】

- 2019年までに、災害時の一斉情報配信等の実現に向け、デジタルサイネージの相互運用性を確保。
- また、スマートフォンやデジタルサイネージ、交通系ICカード等のICTを横串で活用し、外国人観光客等が、その属性(言語等)や位置に応じた情報入手を可能とするとともに、それらを活用してキャッシュレスかつスムーズに移動できる環境を整備。



アクションプラン(案)概要

【各分野横断的なアクションプラン(案)】

I. 都市サービスの高度化

災害情報の一斉配信や、スマートフォンや交通系ICカード等を活用し、訪日外国人、高齢者、障がい者をはじめ、誰もが、最適な属性(位置、言語、障がい度)に応じた情報入手やスムーズな行動を可能とする社会の実現

II. 高度な映像配信サービス

映画館、美術館、博物館・競技場などの公共空間のデジタルサイネージに対し臨場感ある映像配信を実現、4K・8KのBtoBサービスの活性化

【各分野別のアクションプラン(案)】

接続の壁をなくす

無料公衆無線LAN環境の整備促進

- ✓ 主要な観光地や防災拠点(約29,000箇所)におけるWi-Fiスポットの整備
- ✓ 認証手続簡素化・一元化の実現
- ✓ 共通シンボルマークの導入等による周知広報

言葉の壁をなくす

多言語音声翻訳対応の拡充

- ✓ 多言語音声翻訳技術の研究開発・技術実証の推進・社会実装の実現
- ✓ 多言語音声翻訳対応の拡充(10言語以上の実現、病院・商業施設・観光地等への対応)

情報の壁をなくす

デジタルサイネージの機能拡大

- ✓ 災害時等緊急情報の一斉配信
- ✓ スマートフォン等の連携による属性に応じた個人に最適な情報配信

臨場感の向上

4K・8Kの推進

- ✓ 2016年に4K実用放送開始
- ✓ 2018年に8K実用放送開始
- ✓ パブリックビューイングにより2020年東京大会の感動を全国各地で共有
- ✓ 市販のテレビで4K・8Kの番組を視聴可能



日本の魅力を発信する

放送コンテンツの海外展開

- ✓ 関係省庁との連携による継続的取組実施
- ✓ 2018年度までに放送コンテンツの売上げを2012年度の約3倍の達成

移動の壁をなくす

オープンデータの利活用推進

- ✓ 公共交通情報提供のワンストップサービスの実現
- ✓ 観光地等における社会実証

利用のストレスをなくす

第5世代移動通信システムの実用化

- ✓ 通信容量 現在の1,000倍
- ✓ 通信速度 現在の100倍
- ✓ 接続数 現在の100倍
- ✓ 遅延 現在の10分の1
- ✓ 国際連携の強化、国際標準化の推進

利用の不安をなくす

世界一安全なサイバー空間の実現

- ✓ サイバー攻撃関連情報共有のためのICT-ISAC(仮称)等体制整備
- ✓ 実践的セキュリティ人材の育成
- ✓ 大規模サイバー演習環境の構築